

月刊 やちまなこ

2012.6.15 発行

No. 175

6 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



霧の晴れた湿原は鮮やかな緑に包まれ、季節を彩る花たちも咲き始めた。まるで雪のようなヤナギの綿毛が舞い降りた川面には鮭の稚魚の群が見え、これから海へと下り、数年後無事に戻って来ることを祈るようにカッコウの鳴き声が対岸から聞こえた。

コッタロ川と湿原のほとりから

144 6月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

緑陰に鹿ノ仔の群の見え隠れする頃となりました。朝の気温もどうにか二桁を示すようになって、薫風に波打つ草の青を眺めておりますと氷点下で過ごした半年間が夢に思えてなりません。スズランを筆頭に香気漂う草花の開花リレーで次から次へ途切れることなく秋迄続くことを予想するのは心楽しく生きる喜びが湧いてくると云えましょう。

一方湿原では早くも実をつけたスゲの群落が、ちょっと見には青白い毛虫の如き穂先を心もち垂れており、ぎっちりとしき間なく入った種の重さを物語っているのです。又、カエルの合唱第二弾酣の6月4日、エゾハル蝉の初鳴き“ ミ～ヨ～シ～ ”のユーモラスな力強さが加わって、日中の喧しい狂奏曲にさらされていると、彼等に『蛙蝉(アゼン)軍楽隊』の称号を贈呈したくなるではありませんか。

ところで度重なる水害の末、2年間を棒に振った丹頂のコツ&タロの子育ては、今季も二度目の営巣があやぶまれる中、36日の抱卵でやっと孵化させることが出来ました。20、21羽目のヒナは思ったより元気に動きまわり、お達者クラブそのものです。さらに遠く下流の湿原にて孵化した第2コツ&タロの16、17羽目もほぼ同じ大きさに育っており今のところ胸を撫でおろしておりますが、不安材料の野犬3頭(鹿猟ハンターに置き去りにされたもの)から目が離せません。

さて、渡来した夏鳥達の大方は営巣中で、巣材をくわえて運ぶと囀りに忙しいのシマエナガ特に愛くるしいのに魅せられて撮りましたので御覧下さい。



湿原の住人たち その135

初夏の湿原周辺に彩りを添えるエゾスカシユリが咲き始めました。出来始めの蕾は、茎の先に丸めた白い綿毛がついているだけで遠目にはわかりませんが、オレンジ色の大きな花が咲くと、明るいエネルギーを放つように車窓からも目につきます。真上からのぞいた花の中心部に、蝦夷透百合の名前のいわれのすき間が見えます。上向きに咲くこの花の工夫なのか、雨の滴が花びらのすき間から下へ流れていました。6～7月に見られます。

エゾスカシユリ



新緑のシラルト口湖・蝶の森周辺で、野鳥の声や姿を楽しみました！

6月9日午前10時から、タンチョウコミュニティ代表の音成邦仁さんの解説で「夏鳥ウォッチング」を行いました。はじめに、まわりの音に耳をすませ、色々な音を発見するウォーミングアップをしてから、初参加の子供向けに、身近な鳥で見つけやすいカラスやトビの特徴を教わりながら観察しました。4月の観察会で見たトビの巣にはヒナが誕生していて、そっと観察しました。湖岸では、葦原のコヨシキリをみんなで協力して探し、望遠鏡で確認しました。蝶の森では、この時期散策路に落ちている“落とし文”も観察しました。

大人も子供も何が入っているのか興味津々で、葉の中で成長した小さな幼虫を見て、親の丁寧な仕事(技)に驚いていました。カッコウやシマセンニュウなど声だけの確認も含め、21種類の野鳥との出会いを楽しみました。



ニュウナイスズメを観察中



落とし文の解説をする講師

ネムネムのとうろうろう日記 Vol.37「死体にまつわるエトセトラ」

雨上がりの朝、職場の玄関に丸まったブルーシートが落ちていました。風で飛ばされてきたのかしらと手にとると、中からタヌキの死体がずりりと・・・(ぎゃ～!)。普通の職場だったら嫌がらせです。しかしこれは地元の方からの善意のプレゼント。郷土館ではなく製を作るときに使えますし、郷土館で使わなくても、大学などに送れば、様々な研究に使うことができます。ありがたいのですが、連絡無しに入り口に置かれていると、ちょっと怖かったりします。

また昨年より大学からアオサギのヒナのサンプルを頼まれ、郷土館の駐車場で足や羽根を拾って送ったりしています(カラスがヒナを食べた残骸が散らばっているので)。しかしこれがなかなかシユールな光景です。

だって季節はジュンブライド。隣のホテルで結婚式があり、よく郷土館の前で記念写真を撮っています。そのまわりで血がついたアオサギの死体を拾っているわけです。自分がウェディングドレスを着た花嫁さんとしても同じ人種とは思えず、はて人生のどこで道を踏み外したのだろうか?と考えてしまいます。

辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)



7月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

縄文土器と土偶を作ろう

【日時】7/14(土) 10:00~14:00

【定員・参加料】15名、300円

【場所】塘路湖エコミュージアムセンター

【持ち物】エプロン、手拭きタオル、昼食

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

初夏の湿原花ハイク 【日時】7/8(日) 10:00~12:00

ホタルウィーク 【日時】7/18(水)~22(日) 19:00~20:30

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルト湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(5/19)エゾキケマン、エゾオオサクラソウ、エゾクサイチゴ (5/20)アカネスミレ、レンブクソウ (5/22)ヤチダモ雄花 (5/25)エゾノウワミズザクラ、ミツバツチグリ、ミミナグサ、コンロンソウ (5/26)クサノオウ、ミヤマエンレイソウ、ツボスミレ、オニグルミとミズナラの雄花 (5/28)エンコウソウ、シコタンキンポウゲ、スミレ、ヒメイズイ、ワタスゲの実、ニリンソウ、マイヅルソウ (6/2)エゾニワトコ (6/3)クルマバツクバネソウ、シャク、エゾノタチツボスミレ (6/5)ニワゼキショウ、ナナカマド、エゾノコリンゴ (6/8)フデリンドウ、ネムロブシダマ、ヤチダモ雌花、コウライテンナンショウ (6/9)ミヤマザクラ (6/10)アヤメ、エゾカンゾウ、エゾスカシユリ、ヒメカイウ、スズラン

【鳥】(5/20)アカエリカイツブリ、ツツドリ (5/21)ツバメ、ショウドウツバメ、エゾビタキ (5/26)カワラヒワ、コムクドリ (5/27)ノゴマ、カッコウの声 (5/28)タンチョウ、カルガモ、ヨシガモ (5/29)アマツバメ (6/4)ピンズイ、ベニマシコ、コヨシキリ (6/5)メダイチドリ、カワセミ (6/9)シマセンニュウの声、トビの雛

【その他】(5/18)セイヨウオオマルハナバチ (5/19)モンスズメバチ (5/20)キタキツネ (5/21)部分日食 (5/29)シマヘビ (5/31)クジャクチョウ、エゾハルゼミ (6/8)キアゲハ、サトキマダラヒカゲ、ヨツボシトンボ、コサナエ (6/6)鮭の稚魚

日出・日入時間 6/15(3:43, 19:03) . 6/30(3:46, 19:06) . 7/14(3:56, 19:00)



林でかくれんぼのコサナエ (蝶の森6/8)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~17:00(11月~3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料